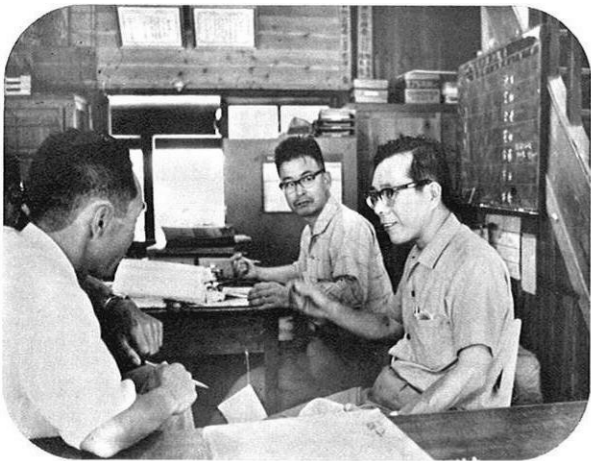
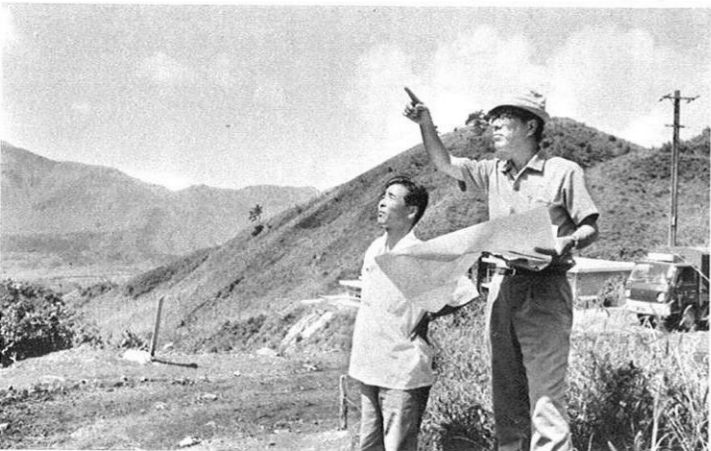


左・完成急ぐ県営有料道路。阿蘇観光の強力なキメ手となる。

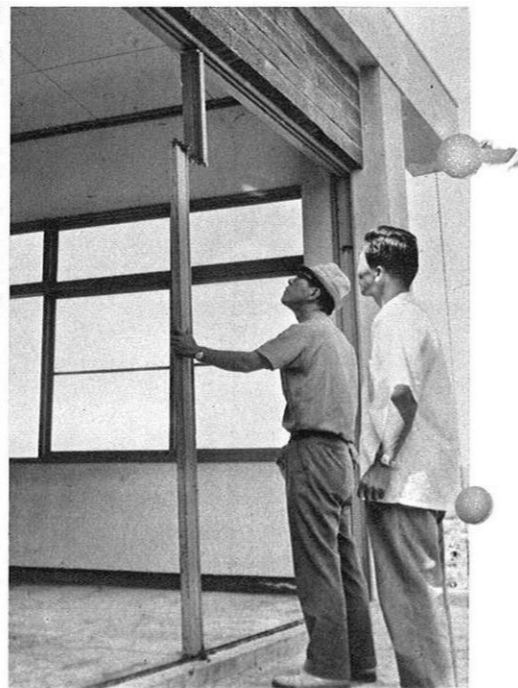
下・役場の観光担当者に何かとアドバイス……



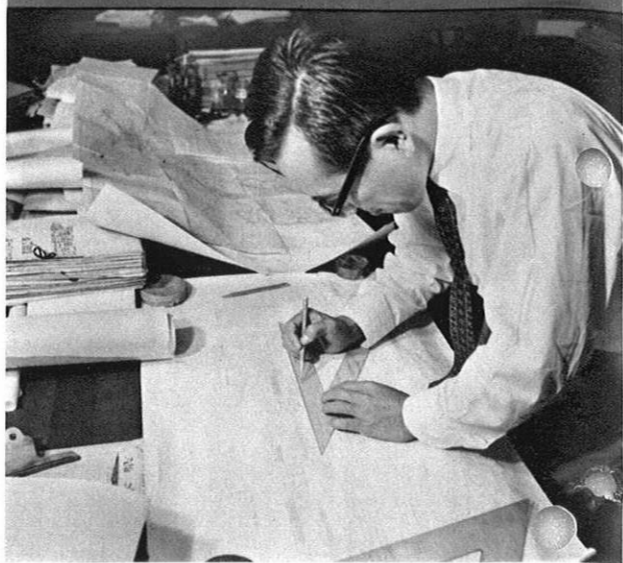
下・自然美に調和した、統一的な観光計画を（地獄・垂玉温泉で）



右・苦心したキャンプ場施設が、心ないキャンパーによってこわされていた



カメラ・スケッチ
観光ラッシュの裏方



一県観光課施設係員の活動一

世は、あげてレジャーブーム、観光ブーム。新しい時代は、新しい観光を要求している。そして、その要求にこたえるべく、はなやかな観光のうしろで、コツコツと受け入れ施設を整えている人たちがいる。——美しい自然をできるだけ守ろうと懸命になっている人たちがいる。

自然の風光の中で、新しい“観光くまもと”を方向づけようとして活動する県観光課施設係員の姿を追ってみた。（本文25頁を参照）

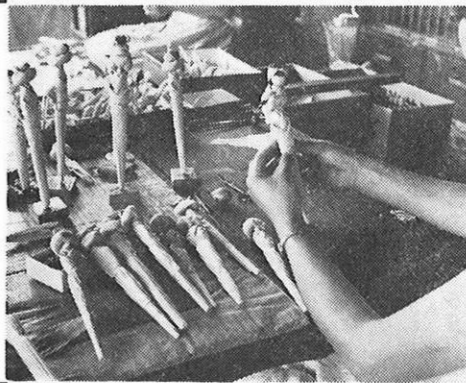
トウモロコシは、秋の風物詩だ。ことに、農家の壁いっぱい干されたトウモロコシの束が、晩秋の日ざしに鮮やかな色彩をみせる。阿蘇路の秋は、ひととき私たちの郷愁をかき立てる。

土地では、トウキビと呼ぶが、阿蘇地方に、古くからのトウキビの皮で作る人形がある。阿蘇の農民生活と切っても切

トウキビ人形

〈新産業風土記〉

阿蘇の民芸品



一番苦心したのはやはり髪型。今、丸まげ、高島田、桃割れなど何種類かの人形と、赤ん坊を背負った子守人形とが作られている。髪、頭の部分は、迫さん自身でこしらえる。二、三人の女の人の手で作られているが、気に入らねばこわしてしまうので、一日二十個位の生産、またのだった。

追さんが、この型に定着させるまでには、六年間、五百個にのぼる試作品が、作ってはこわされ、こわされては作られた。「最初はお金にするつもりはなかったし、その自信もなかった」のが、すめられてコンクールに出し、見事入賞したのだった。

極端にデフォルメされた首部、簡潔な線のみせる胴部、全体が、トウキビの皮の白一色である。いかにもすっきりとした感じが、思わず人形を手にとらせる。人形の台木に、リンドウの押花がはりつけてあるのも、いかにも阿蘇を思わせる。

「生みの親の迫しずえさんを一の宮町にたずねてみた。このひなびた、素朴な人形を、現代風にアレンジして、さきの全国観光みやげ品コンクールに入賞した、「トウキビ人形」生みの親の迫しずえさんを一の宮町にたずねてみた。極端にデフォルメされた首部、簡潔な線のみせる胴部、全体が、トウキビの皮の白一色である。いかにもすっきりとした感じが、思わず人形を手にとらせる。人形の台木に、リンドウの押花がはりつけてあるのも、いかにも阿蘇を思わせる。

紅白の手綱に、小さな鈴までついて、まずは訪れる旅人を十分満足させられよう。



〈直線的でたくましいあか牛〉

阿蘇のあか牛
現在のとこ、制作はもっぱら奥さんのちえさんと嫁の今日子さん。原型をとるまでの工程が機械によることができ、量産が可能なのは強みだ。

材料は桐。無駄のない直線で構成された牛のフォルムは、いかにも阿蘇のあか牛のたくましさと思わせる。金泥に朱を

まだまだあちこちからの引っ張りダコは続くだらう。

人吉といえば温泉と球磨川下りが代名詞のようなもの。これに加えて球磨地方の文化財を中心とした人吉市房（水上村）の新しい観光コースが検討されている。これは人吉、球磨を一体化した観光開発だが、点から線につながる意欲的な計画として注目される。さらには、川下りの方も別に第二コースの開発が進められつつある。

目下の隘路は交通面と施設だが、沿岸道路の整備と鉄道の急行、準急の増発、郷土資料館の建設などが急務とされ、施設の点では屋内グラウンド、プール、温泉センターなどの建設が望まれている。「静かな観光休養都市へ」というキャッチフレーズにふさわしく、何としても市周辺の自然環境を生かした、落ち着いた温泉都市づくりが最大の強味。鹿児島、宮崎との連結の問題、民間投資によるゴルフ場の建設計画など将来へのビジョンも豊富。

観光休養都市への意欲

健全で総合的なレクリエーションの場にしよう。

明年度完成予定の内大臣林道は、熊本、宮崎の最短距離となる。百歳の原生林に覆われた標高百五十級の九州山脈の内懐まで、熊本から一時間半である。内大臣発電所の補償金による国民宿舎も近く完成する予定だ。